

# 仕合わせ

# の和

第208号  
令和元年. 7. 1  
(毎月1日発行)

## 観音様は何を観るみ

住職 谷川寛俊

真成寺では、早朝5時励行のお勤めの時、皆さまと一緒に『みょうほう妙法蓮華れんげきょう経観世音菩薩品くわんぜおんぼさつほん』だいにじゅうご第二十五(観音経)』を拝読し、また水子観音様の御宝前におきましても、観音経を一巻読誦しています。

ところで、お経の中には、多くの菩薩様が登場されますが、その中でも私達に1番馴染みのあるのが観音菩薩様なのではないでしょうか？

観音様は読んで字の如く「音を観る」菩薩様です。では一体どんな音を観るのでしょうか。

正しい呼び名は「観世音菩薩(かんぜおんぼさつ)」、即ち世の中の音を観る菩薩です。世の中

の音とは、私達の色々な悩みの音です。たとえば不満があると、私達はブツブツ言います。苦しい目に遭うと、フーフー言います。悲しいとオイオイ泣きます。そんな色んな音を観音様は聞いておられるのです。でも観音様は、ただ同情するだけのお方ではありません。観音様の観という字は観るという字、観察の「観」の字です。ただ同情するだけではなく、その人の悩みが理に合ったものかを冷静に観るのが「観」という意味なのです。

私達は願い事や、悩み事を仏様にお願ひすれば、事が解決すると思つて手を合わせます。でもその願ひが正しいか正しくないかを判断するのが観音様の観です。手を合わせるにも、色んなタイプの人があります。悩みがあるから、仏様にお願ひする其の気持ちをよく分かるのですが、ただ苦しい目に遭つたからといって、自分自身の反省もなく、なんでもかんでも他人のせいにして、仏様『どうか、お助け下さい』とお願ひしているよ

### 真成寺ホームページ

<https://bit.ly/2Gz55Mz>

編集・発行  
玉蓮山 真成寺  
編集部 谷川久仁子

TEL・FAX 0765-22-2268

携帯 080-3744-2523  
こちらの番号でも  
お寺につながります。

うな姿を見ると、この人の言う事を叶えてあげるのが、本当の救いになるのかどうかを考えさせられることがよくあります。

お経の中には「あなたが色々な苦しみを受けたとき、一心に観世音菩薩の名を称(とな)えるならば、菩薩はその声を聞いて、全ての人に解脱(げだつ)の心境を与えることであろう」と説かれています。

だからその人の苦しみを、その場で簡単に取り除くだけが仏様の救いではありません。なんの反省も無く、只々救われたいと願うだけでは、本来の救いはありません。

観世音菩薩の別の呼び名を、『観自在菩薩(かんじざいぼさつ)』と言います。それは真理を自在に観るという意味です。即ち、何が正しい事なのかを観る菩薩ということです。自分勝手な欲に囚われず人はお互いの出会いによって生か



されていると、正しい目で観る時、本当の救いが与えられると仏様は説かれているのです。